



## お知らせ

記者発表資料  
配布日

平成29年7月19日

■同時発表先：三次記者クラブ  
中国新聞社吉田支局

### 平成29年7月3日から5日の出水時における治水事業の効果について

江の川<sup>ごうかわ</sup>の土師<sup>はじ</sup>ダム流域では、7月3日夕方から5日昼頃にかけて、梅雨前線の影響により強い雨が降り、土師ダム上流で降り始めからの流域平均累加雨量232mmを記録しました。

このため、土師ダムではダムへの流入量が最大で毎秒約820m<sup>3</sup>に達し、このうち、最大で毎秒約380m<sup>3</sup>の水をダムに溜め込みました。

この結果、下流の安芸高田市吉田町付近で、水位を約1.4m下げ、堤防設計、河道の整備等の基準となる計画高水位以下の水位に抑え、江の川からの氾濫被害を防止したものと推定されます。（別紙－1）

また、通常の防災操作に加え、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の状態に応じて、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を規定（操作規則・細則）よりも減じる操作（適応操作）も実施し、通常の防災操作と比較して下流の吉田町付近で約0.8mの水位を下げるとともに国司地区では排水ポンプ車も出動しましたが、河川に排水できずに氾濫していた時間の短縮に寄与したものと推定されます。（別紙－2）

江の川本川<sup>みよししあわやまちあさひ</sup>の三次市栗屋町旭地区においても、平成25年度に完成した堤防の整備効果により、浸水被害が防止されたと推定されます。（別紙－3）

#### <問い合わせ先>

（河川関係）

国土交通省 三次河川国道事務所 0824-63-4121（代表）

【担当】副所長（河川） 田村 実（内線204）

【担当】建設監督官 栗原 淳（内線403）

（ダム関係）

国土交通省 土師ダム管理所 0826-52-2455（代表）

【担当】管理所長 犬山 正（内線201）

【担当】専門官 坂本 和雄（内線330）

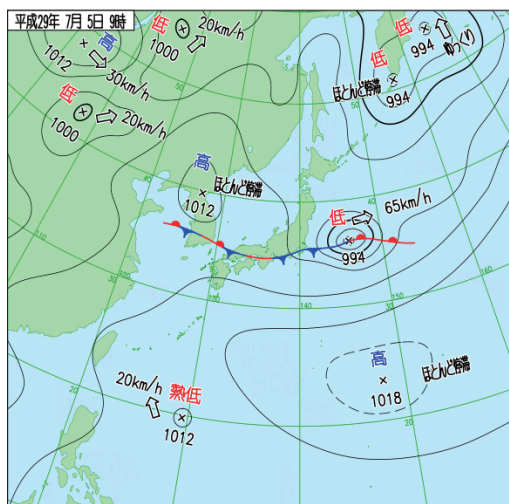
# 治水事業の効果

## ～平成29年7月5日梅雨前線にともなう出水～

平成29年7月5日、梅雨前線が日本海からゆっくりと南下、西日本に停滞し、この前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため「線状降水帯」が形成され、島根県西部や広島県北部でまとまった降雨をもたらしました。同日5:55には、島根県に「大雨特別警報」が発表されました。この大雨により、5日8:30に江の川水系江の川 吉田水位流量観測所（広島県安芸高田市吉田町吉田）で氾濫危険水位を超えました。

同日8:57には、全国の国管理河川で初めて、三次市及び安芸高田市全域に洪水情報のプッシュ型配信を実施しました。また、近年の堤防整備により三次市粟屋町旭地区における浸水被害を防止しました。

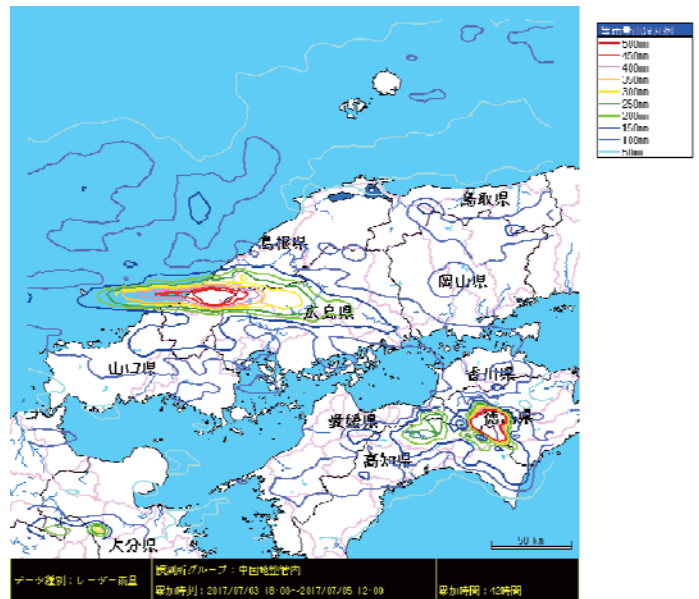
天気図(7月5日9時)



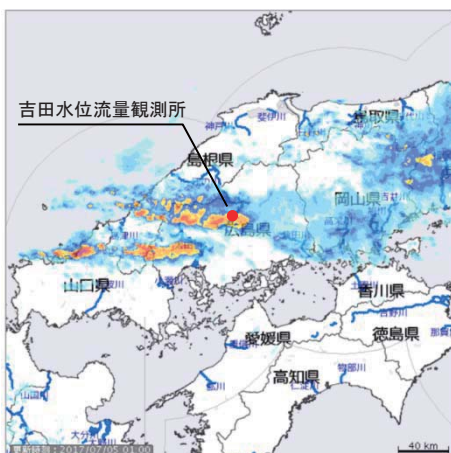
(気象庁ウェブサイト)

等雨量線図

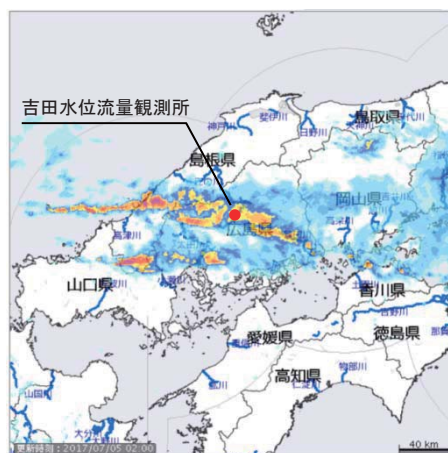
(7/3 18:00～7/5 12:00 累加雨量)



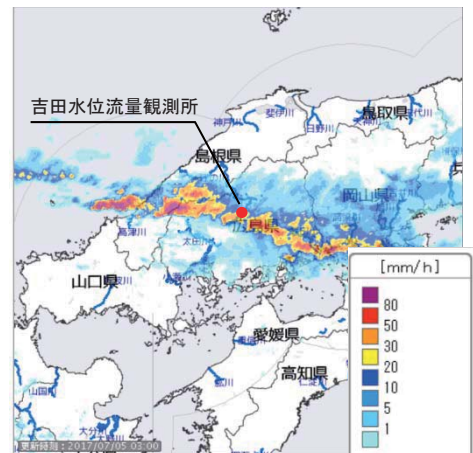
線状降水帯の状況(XRAIN)



7/5 1:00



7/5 2:00



7/5 3:00

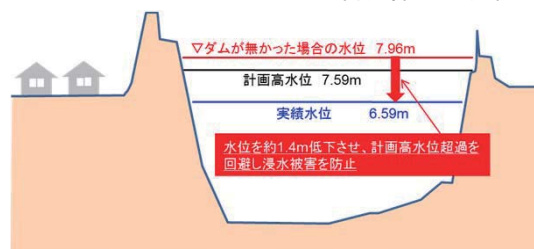
## 土師ダムの防災操作による治水効果(平成29年7月3日～5日梅雨前線)

## ☆計画高水位の超過を回避し江の川からの氾濫被害を防止

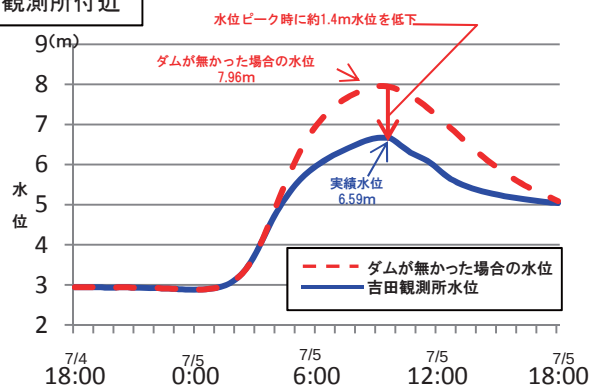
- 梅雨前線の影響による7月3日18時から5日12時までの降雨により土師ダム上流の流域平均累加雨量232mmを記録
- 土師ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約820m<sup>3</sup>に達し、このうち毎秒約380m<sup>3</sup>の水をダムに貯めました。
- この結果、安芸高田市吉田町付近の水位を約1.4m低減させる効果があったと推定され、堤防設計、河道の整備等の基準となる計画高水位以下に抑えることが出来ました。
- 仮にダムが防災操作をしていなければ計画高水位を上回る出水となり、安芸高田市への氾濫により右岸側で氾濫したと仮定した場合では約29ha・76戸の浸水被害、左岸側で氾濫したと仮定した場合では約29ha・178戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。



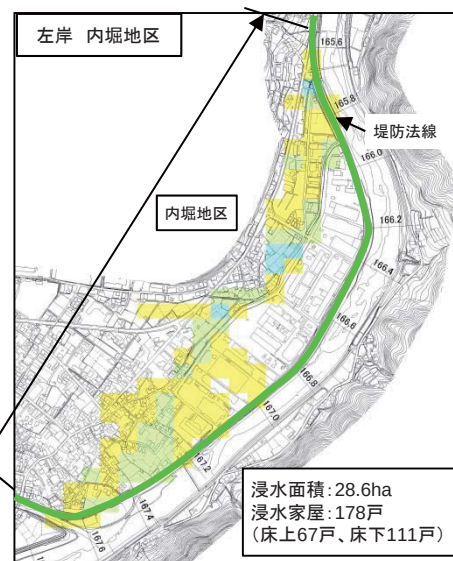
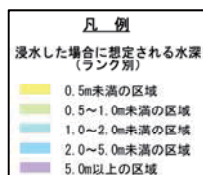
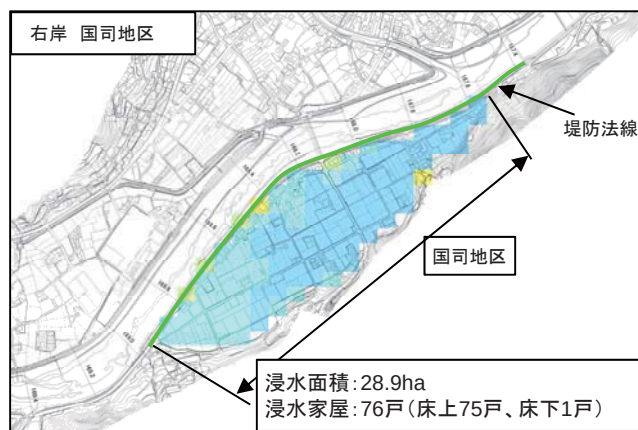
吉田町付近における土師ダムの防災操作の効果



吉田観測所付近



土師ダムが防災操作しなかった場合の被害シミュレーション

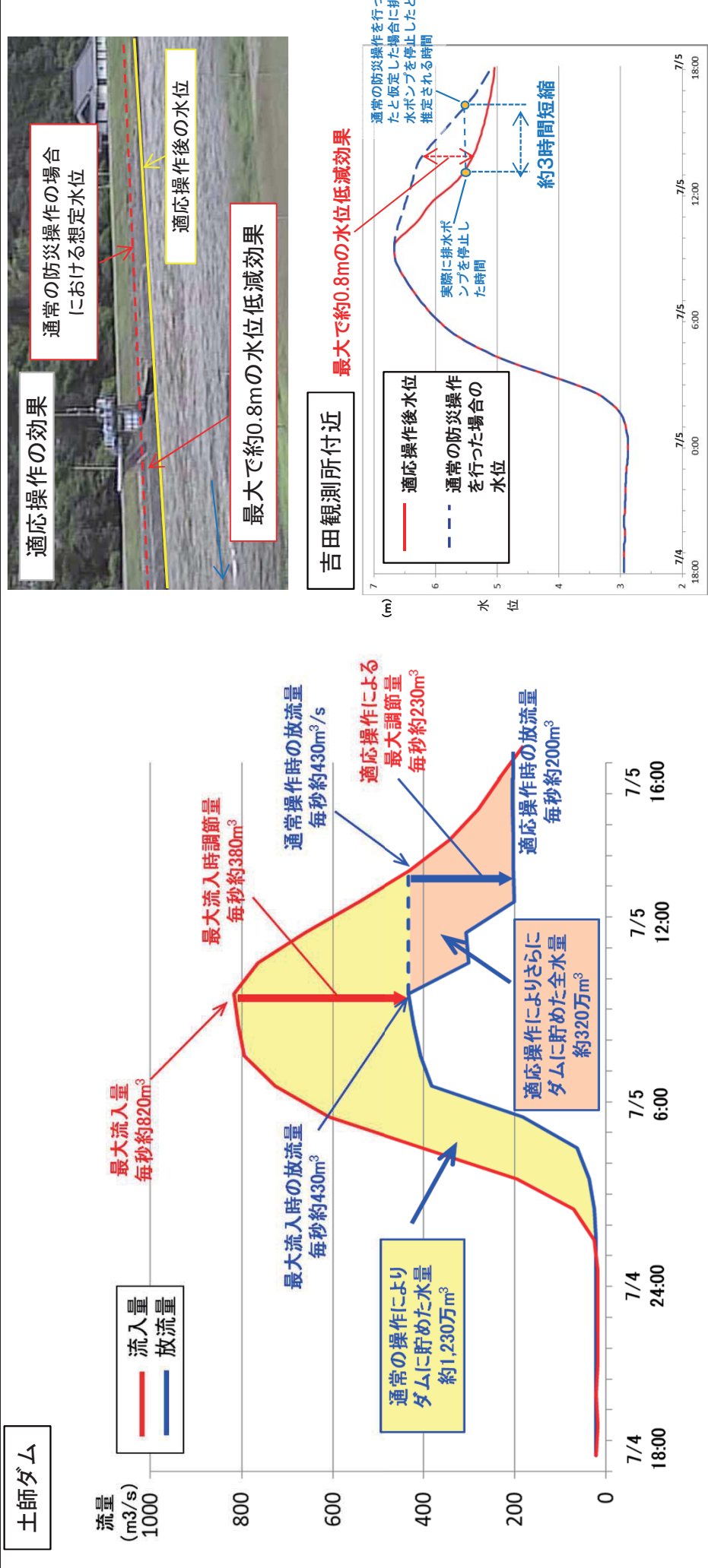


※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。



梅雨前線の影響による7月3日からの土師ダム上流域の降雨（最大時間雨量29mm、流域平均累加雨量232mm）により、土師ダムでは防災操作を行いました、下流の吉田水位観測所において氾濫危険水位を超えたため7月5日9時45分から通常行う操作よりも多くの水をダムに貯める「適応操作」を実施しました。  
この操作により、安芸高田市吉田町付近の水位を通常の防災操作に比べて約0.8m低減させる効果があったものと推定され、国司地区における排水ポンプ車による排水が必要となった時間について約3時間短縮することができ、河川に排水できずに氾濫していた時間の短縮に寄与出来たものと推定されます。

※「適応操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の状態に応じて、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を規定（操作規則・細則）よりも減じる操作です。今後の雨が予測される場合や、多くの降水量が予想される場合は実施出来ません。



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。

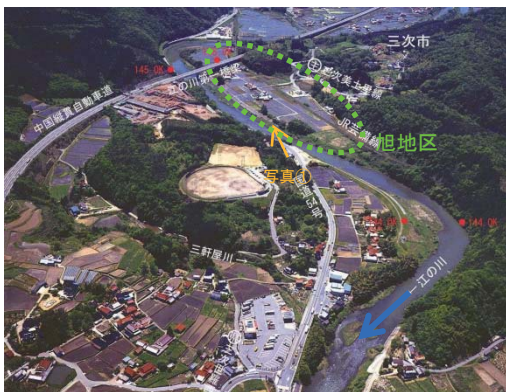
# 堤防整備が効果を発揮(広島県 江の川) (国管理)

別紙-3

みよしし あわや まち あさひ  
(広島県三次市栗屋町旭地区)

- 梅雨前線の影響により、江の川吉田地点上流の流域平均累加雨量は222mm(7月3日18:00～5日12:00)に達しました。
- 三次市栗屋町旭地区では、平成25年度に完成した堤防により、昭和47年7月洪水の規模が発生した場合でも、安全に洪水を流下させることが可能となっています。
- 今回の出水においては、堤防整備により約5.3haの土地の浸水が防止されたと推定されます。

位置図



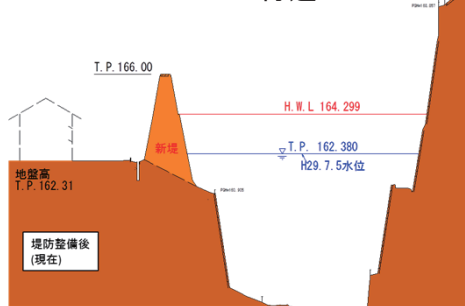
平成29年7月5日洪水痕跡  
江の川144k600付近

写真①



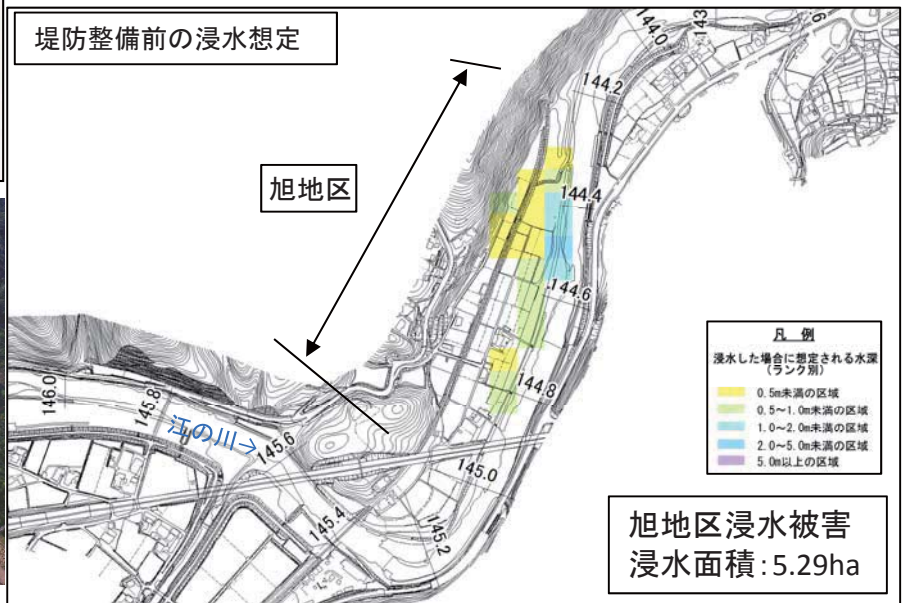
堤防整備により溢水、浸水を防止

144k600付近



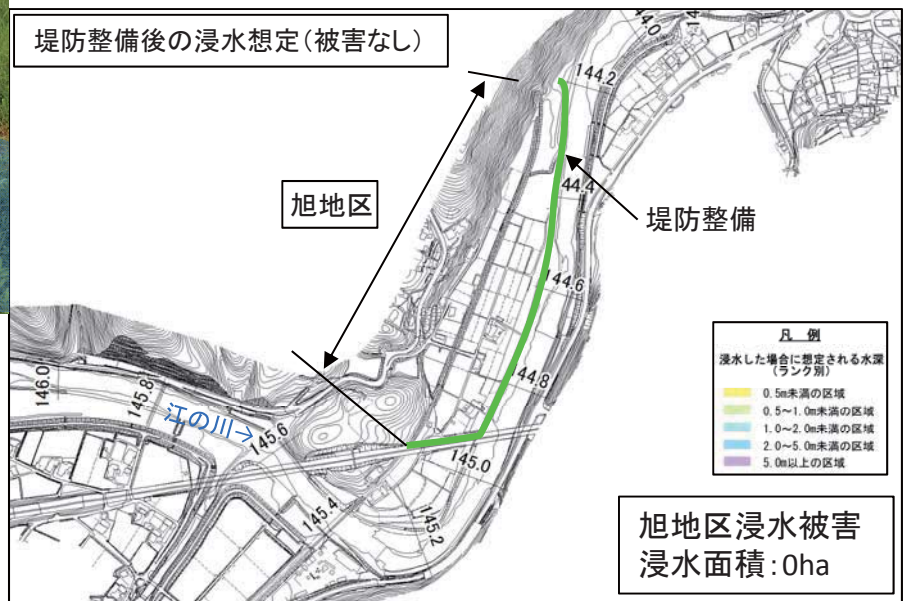
平成29年7月5日出水における整備効果

堤防整備前の浸水想定



堤防整備

堤防整備後の浸水想定(被害なし)



※本資料の数値等は速報値を含むため、今後の調査で変わる可能性があります。